

1歳ですよろしく

随想

野鳥の愛



小笠原 盈喜 (永田)

秋から春まで毎年のこと、拙宅の小さな庭にきまったように2羽連れのひよどりが飛来し、にぎやかにさわいでいたが数年前のある日、机に向かっていた時のこと、いつも2羽連れのはずがその日に限り、1羽のみ飛来していた。突然窓の外で異様な悲鳴が聞こえた。おおかたイタチに襲われたのである。かわいそうだがどうしようもない。しばらくして残りの1羽が飛来してきて、先に来ているはずのひよどりをしきりに呼んでいる。でも、再びその前に姿

を現すことはない。それから毎日何回となく飛来しては、悲しげな声で探し、呼び続けた。冬の渡り鳥ゆえに春が来て、淋しく単身生まれ故郷の北国へ旅立つのである。そして秋再び飛来し、以前同様毎日現れては同じ場所探し、呼び続けている。何年も続き、あわれで心が痛む。話せるものなら事の次第を話してやりたいとさえ思ったものだ。最近新聞、テレビなどで肉親の間での不祥事が報道されているのを見るにつけ、あんな小さな小鳥の純愛がことさ

ら心にしみる。今年になり突然あの呼び声が聞こえないのだ。どこでどうしているのだろう。新しい伴侶が見つかったのだろうか。または、悲しい生涯を終えたのか気がかりでならない。厳しい自然界で子孫を残すために、産卵し孵化させる手段をとるものには魚や鳥がある。魚は産んだだけで我が子の面倒をみないが、鳥は親が命がけで子が自立できるまで面倒を見る。特に裸で生まれる種は目が見えるようになり、羽毛が生えそろうまで体温の

調節、給餌と休むことなく世話をする。親と子ゆえにこまやかな愛情がはぐくまれるのだろう。そんな小さな命を粗末にしてはならんよと、ハンターであった私にある老人がそれとなく言ってくれた一言が、即時狩猟をやめた理由であり、以後命ある物に対する見る目が変わったことは事実である。この事から自然に生きるものの愛、愛するという気持ちを学んだ。これからの永くない余生だが、その気持ちを持ち続けたいと願っている。



颯くん、これからも元気で大きくなってね。

平成13年6月25日
父 征司さん
母 友紀さん
乗松 颯太くん
(新立)



明るくてやさしい、ステキな女の子になってね。

平成13年6月2日
父 史朗さん
母 仁美さん
中川 佑香ちゃん
(神崎)



お兄ちゃんが大好きな明香里ちゃん。いつまでも仲良くしてね。

平成13年6月9日
父 昌士さん
母 敬子さん
藤山 明香里ちゃん
(宗意原)



お姉ちゃん大好きな結南ちゃん。元気に育ってね。

平成13年6月24日
父 純一さん
母 香さん
村井 結南ちゃん
(杜宅)



お兄ちゃんにまけないくらい元気で優しい子になってね。

平成13年6月10日
父 修司さん
母 雅子さん
久保 諒花ちゃん
(上高柳)

7月、1歳になられるお子さんの写真を募集しています。背景が明るい写真をお持ちのうえ、6月3日(月)~10日(月)の間に役場総務課秘書広報係へ(先着6名まで)。